

みんなの思いを カタチに

出会いと対話から
はじまる
亀山のまちづくり



4月12日、市が現在進めている次期総合計画の策定に向けて、若者世代の意見を聴くことを目的に「亀山の未来を考える『カメトーク』」が開催され、40歳未満の21人が「10年後の亀山市に期待すること」を主なテーマに意見交換を行いました。

結婚や仕事をきっかけに移住された人や学生などの皆さんから、交通の便、働く場所、通学路・歩道の安全などの問題・課題について意見が出された一方で、ゆったり過ごしやすい環境、人のやさしさなど本市のいい点が挙げられました。また、「みんな日々いろんなことを思っているけれど、声を上げる機会や場がない」との意見もありました。

今回は、市が目指す将来都市像や目標・政策をまとめた「総合計画」に多様な世代の意見をもっと反映できるよう、私たちが住む「まち」について考えます。

問合先 政策推進課政策調整グループ ☎84-5123

「亀山市まちづくり基本条例」を知っていますか？

亀山市では、平成19年6月に、市民、公共的団体、学識経験者等の25人のメンバーから構成される「亀山市まちづくりの基本を定める条例を考える会」を立ち上げ、100回を超える検討を経て、平成22年4月1日に「亀山市まちづくり基本条例」が施行されました。

この条例は、亀山市が、ここに住む一人ひとりが生き生きと輝き、幸せに暮らすことができるまちになるよう、市民、市議会、執行機関（行政）の三者がそれぞれの役割を明らかにした上で、力を合わせていまいちをつくっていくための基本理念やルール・約束事を定めたものです。前文に始まり、市民・市議会・執行機関の権利や責務を定めるほか、まちづくりを行う際の9つの基本原則などが示されています。

「亀山市まちづくり基本条例」について詳しくはこちら



次の世代のために、今、私たちに何ができるのだろうか



亀山市まちづくり基本条例推進委員会

会長 岩崎 恭典さん

Profile

四日市大学名誉教授、前学長。専門分野は地方自治。元三重県教育委員会委員長。亀山市まちづくり基本条例の策定に関わる。現在、亀山市まちづくり基本条例推進委員会委員長、亀山市環境未来創造会議委員長。



第1回かめやま市民会議(平成19年5月19日)の様子



まちづくりサロンの様子

私たちは過去にとらわれてはいけない時代にいる

子どもの数が少なくなったなあとか、お年寄りがますます増えたなあ、また、空き家が増えたなあなどと地域の少子・超高齢化を私たちは実感せざるを得ません。すでに30年も前に、日本全体として15歳から64歳のいわゆる生産年齢人口はピークを迎え、20年前には日本人の人口もピークに達し、その後、双方ともに急激に減少しています。去年は、日本全体で四日市市と鈴鹿市を合わせた以上の人口が減っています。それだけに、人口減少に伴う諸課題は、働く人の不足やそれを補うための外国にルーツを持つ人々の定住化といったことだけで解決できるものではなく、これまでと同様の形で市民が望むサービスを市が提供することが難しい状況に立ち至っています。

だからこそ、人口増加が経済的な成長とリンクし、成功体験として強く印象付けられている前の時代とは全く違った社会を今後作っていく先駆けとなるべきは、まさにその時代を生きてきた、つくってきた人々、すなわち、シニア世代の方々にほかならないのです。

市民にも覚悟を求める「まちづくり基本条例」

亀山市では、本格的な人口減少社会が早晚来ることを想定して、100回を超える市民参加による検討を重ねて策定された原案をもとに、平成22年、「亀山市まちづくり基本条例」が制定されています。これは、人口減少時代に対応して、市の執行機関や議会、市民が果たすべき役割を明らかにし、共通の目標をもって「協働」して、今後起きるであろう課題を解決していこうという覚悟を示すものです。

そして、この「協働」による「公共」の再構築という作業は、人口減少社会しか知らない初めての世代である今の現役、子、孫世代のために、シニア世代ができる唯一のプレゼントなのです。

総合計画と地域まちづくり協議会 次世代も「自分事」としてぜひ参加を!!

「協働」を亀山市全体で進めるためには、世代を超え、地域を超えた市全体に共通する目標が必要です。その目標となるものが総合計画です。今、亀山市では、次期総合計画の策定作業に入りつつあります。今後、さまざまな市民参加手法が取り入れられるはずですが、残念ながら、策定に際してのアンケート調査やパブリックコメント、そして、審議会の公募委員などにおいて次世代の参加があまり見られないことが残念です。

総合計画で示された課題をより身近な場所で具体的に解決していく仕組みとして、亀山市ではおおむね小学校区ごとに地域まちづくり協議会が結成されています。子育て支援や学校支援、一人暮らしのお年寄りの生活支援など、個人が、団体が、世代を超えて顔の見える範囲での課題解決に取り組むために、「まちづくり基本条例」に設置根拠を持つ組織です。市も市民活動応援券「えがおカード」を活用した財政支援など、全国的にも先進的な取り組みをしています。身近なところで、誰もが持っている小さな「公」を持ち寄ることで、人口減少に対応できる社会をつくっていく。シニア世代も次世代の若者も、計画策定過程や地域まちづくり協議会の活動に、傍観者ではなく、当事者として参画することでしか今後の地域社会は持続できないのです。

亀山を“いいまち”にするために ～みんなができること あれこれ～

地域活動に参加する

- 近隣住民と顔が見える関係を築くことができる
- 子どもの見守りや高齢者の安否確認ができる
- 災害時に助け合える関係づくりにつながる

市民活動・ボランティア活動に参加する

- 自身の幸福感が高まる
- 地域貢献を実感できる
- 人とのつながりができる

伝統行事に参加する 市内の史跡を訪れる

- 歴史文化が継承される
- まちへの関心・興味や愛着が深まる

地元の野菜を買う

- 地元の生産品を知る機会になる
- 地域の伝統的な食文化の継承につながる
- 地域経済の活性化につながる

SNS等で亀山の情報を発信する

- 亀山の知名度や関心度の向上につながる
- 観光客の増加、地場産品の購入・飲食店の利用者の増加につながり、地域経済が活性化

亀山高校も“まちづくり”に参画しています ～亀高が取り組む「地域連携」～



三重県立亀山高等学校
教頭 西川 勝利さん

学校を含めた“地域”で子どもを育てる

「学校も地域に根ざしていこう」と『地域連携』が始まったのは約30年前。始まりは、東小学校の先生を対象にしたパソコン講座でした。当時、東小学校にパソコンが入り、それを使って教えていかななくてはならなくなったときに、使い方を教えてほしいと講師に呼んでもらい、そこで地元の生徒をアシスタントに起用しました。そのとき、「教え子がこれだけのことをできるようになったんだ」と成長を喜べたことがきっかけで、パソコンを始めたい高齢者のお手伝いをさせてもらえるんじゃないかということになりました。

夏休みの夜間に職員が開いていたパソコン講座があったんですが、夜来られない方に来ていただけるようにと、昼間、「あいあい」での講座を始め、テキスト作成から講師、アシスタントまで講座自体を生徒に任せることにしました。ノウハウもない中、校内では心配の声もありましたが、「怒られて試行錯誤して、ノウハウを貯めていくしかない」と話を重ね、始めた講座でした。

地域連携は、時代が変わる中で形を変えながら続いていて、浸透してきました。地域にも地元の子を育てていこうという風土が根つき、生徒を受け入れてくださる“亀高ファン”が非常に増えています。地元の子を預かり、地元で育てていただいた子を地元に戻していくときに地域に貢献できる人材になれるよう、恩返しができればと思います。

学校では見られない大きな変化や成長がある

校外実習やインターンシップでは、生徒は緊張感をもってゴールを目指して取り組みます。行く前はお客さんのような感じですが、それを仕事にする感覚で行くと、違う視点で見ることができるようになります。幼稚園や小学校とのコラボによる取り組みでは、園児・児童が自分たちの想定と違う反応を示すことに「えっ?」と思うことがあり、相手に分かってもらえるようにすることの大切さに気づかせてもらっています。

生徒が自身の変化を理解し、消化できているかは別ですが、達成感や充実感、自己肯定感を持てるようになってきます。受け入れてくれる大人が増えれば、子どもたちは必然的に自分で考え、行動するようになります。今後も、地域のご支援と活躍の場をいただけるとありがたいと思います。



システムメディア科の生徒によるまちづくりのための
アイデア報告

「カメトーク」参加者に伺いました

亀山の良さって？

どうしたら多くの人の意見をまちづくりに生かせる？



伊藤 徳仁さん

竹尾 奏さん

—— 亀山はいい意味で田舎

伊藤さん 出身は津市ですが、職場に近いこともあり2年前から亀山に住んでいます。今回「カメトーク」に参加するにあたり、いろいろ調べると、亀山は治安もよく、買い物もどこでもでき、生活に必要なものがそろっていて、支援も充実していることなどが分かりました。情報はどんどん拾っていかないと、と思いつつ、行政にはもっと情報を検索しやすいようにしていただけるとありがたいなと思いました。

—— 外に出て分かった亀山の良さ

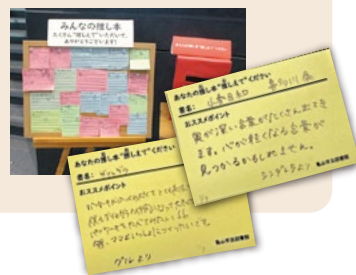
竹尾さん 現在、津の大学に通っています。以前は、津に憧れがありました。大学でいろんな人に会い、県外の友達が増えたことで、「新図書館いいね」、「人が優しいよね」、「なんか雰囲気がいいよね」など、地元の話題が出たとき、亀山の良さに気づきました。今回の「カメトーク」の参加者で、県外の大学に進学した人と話す機会があり、「外に出て分かる良さがあるよね」と同じ思いを共有しました。これから関わる人や若い人にも亀山の魅力を伝えられたらいいなと思っています。

—— 意見を言い合える機会をもっと設けてみては

伊藤さん 僕たち世代は行政との関わりが薄く、行政は遠い存在な感じがしています。今回、こういう場があったからこそ、参加者の皆さんから結構意見が出ました。みんな思っていることはいろいろあって、言いたいことがあったんだなと思いました。「言っても変わらんやん」という感覚があったり、若い自分の考えが正しいのかが分からなかったりして、あまり意見を言わない世代であるように思っていたので、こういう雰囲気では話ができる機会がもっとあれば、思いや意見を言いやすくなるのではと思います。

—— ゆるい意見でも気軽に発言できる環境があれば

竹尾さん 図書館の「推し本」コーナーをよく見ます。オープンで堅苦しくない感じで「ちょっと意見を貼ってみて!」、「今、どんな気持ち?」というような、肩肘張らずに示すことができる場所を設けると、ちょっとゆるい感じの意見や思っていることも発言しやすいのではないかと思います。



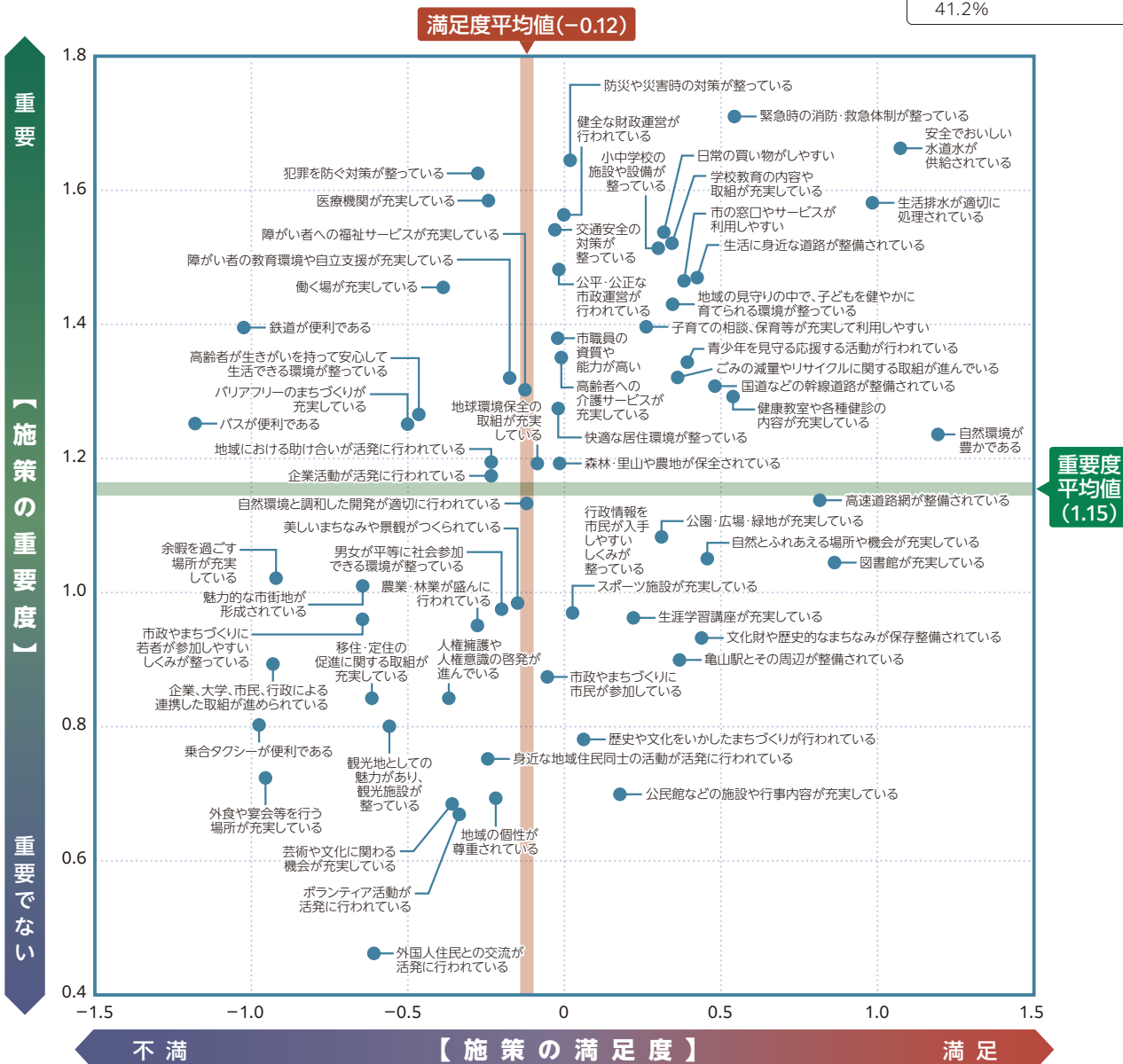
次期亀山市総合計画 (令和8年度～)を策定しています

総合計画は、市が実現したい“未来のありたい姿”を示し、それを実現するためにどう取り組んでいくかを総合的かつ体系的にまとめた市の最上位計画です。市民アンケートやワークショップなど、市民の皆さんの意見を聴きながら計画をつくっています。

総合計画市民アンケート結果より「施策の重要度と市民満足度」(令和7年3月現在)

※「満足」「重要」を+2点、「やや満足」「やや重要」を+1点、「どちらとも言えない」を0点、「やや不満」「あまり重要ではない」を-1点、「不満」「重要でない」を-2点とした5段階評価で得点を付け、42項目ごとに「わからない」「無回答」を除く母数での平均(評点)を算出しています。

調査対象地域
市内全域
調査対象者
市内に居住する18歳以上の
市民1,200人
有効回収率
41.2%



市民の皆さんの意見を計画に生かします 「亀山市の10年後のまちづくりに向けて」

これまで、市民アンケートや「カメトーク」、亀山高校システムメディア科3年生による「まちづくりのためのアイデア」研究報告などにおいて、さまざまなご意見をいただいています。今後もフォーラムやパブリックコメント手続きなどを通して、広くご意見を伺います。

募集期限 5月16日(金)午後5時

まちづくりへの意見
をお聞かせください



次期総合計画策定に向けた 「市民フォーラム」を開催します

とき 5月25日(日)午後1時30分～4時

ところ 市立図書館1階多目的室

内容 将来の理想のまちの姿を描き、その実現に向けたトークセッション、グループワーク等

対象 15歳以上で市内在住、在勤、在学の人または市内に事務所(事業所)を有する人

定員 30人(先着順)

申込 5月16日(金)午後5時までに申込フォームからお申し込みください。

